

## 東日本大震災記録誌の刊行にあたって

日本の観測史上最大となるマグニチュード9.0を記録した平成23年3月11日の東日本大震災から、まもなく2年が経とうとしております。

この震災により亡くなられた方々に、改めて哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

東日本大震災は、地震、津波、そして東京電力福島第一原子力発電所事故が重なった未曾有の災害として、福島県をはじめ広範囲な地域に甚大な被害を及ぼしました。

本市では、地震発生後、直ちに開成山野球場内に災害対策本部を設置し、市民生活の安全・安心の確保のため、24時間体制で全力で努めてきたところであります。

震災という混乱した中で、自らが被災者であるにも関わらず、避難所での炊き出し、がれきの撤去、さらには他人への心遣いや行動など、市民の方々の姿を目にし、「地域の絆」が大切であり、大きな力となったと実感しております。

しかしながら、東京電力福島第一原子力発電所の状況は依然として不安定であり、市民の不安は解消されておられません。さらに、農業をはじめ、商工業、観光産業にまで風評被害が及んでいる現状にあります。

このような中、本市では、放射線の影響を受けやすい子どもたちの健康を第一に考え、他市町村に先駆けて小中学校や保育所、公園、スポーツ広場等の表土除去を実施するとともに、元気な遊びの広場「ペップキッズこおりやま」を開設するなど、様々な対策にスピード感を持って積極的に取り組んでまいりました。

今後も、原子力災害に対し「恐れず、怯まず、侮らず」の考えのもと、各種施策に全力で取り組んでまいります。

本市では、この未曾有の大災害に際し、本市の被害状況や災害対応、さらには復旧・復興に向けた取り組みなどについて、記憶を風化させることなく後世に残すために記録誌を作成いたしました。これは、皆様と力を合わせ、笑顔と元気なまちを築いていくための記録でもあります。

結びに、全国各地及び海外の皆様から賜りました多くの御支援・御協力に深く感謝いたしますとともに、私たち郡山市民に今なお受け継がれている「開拓者精神」を胸に、「魅力あるまち郡山の創造」に向け、皆様の御協力をお願い申し上げます。刊行にあたってのあいさつとさせていただきます。



平成25年2月

郡山市長 原 正夫